

「多摩ブルー・グリーン賞」 経営部門、奨励賞受賞

このたび、「多摩ブルー・グリーン賞」経営部門(新しいビジネスモデルにより地域経済の発展に貢献した中小企業、団体または個人事業主を表彰)におきまして、奨励賞を頂きました。

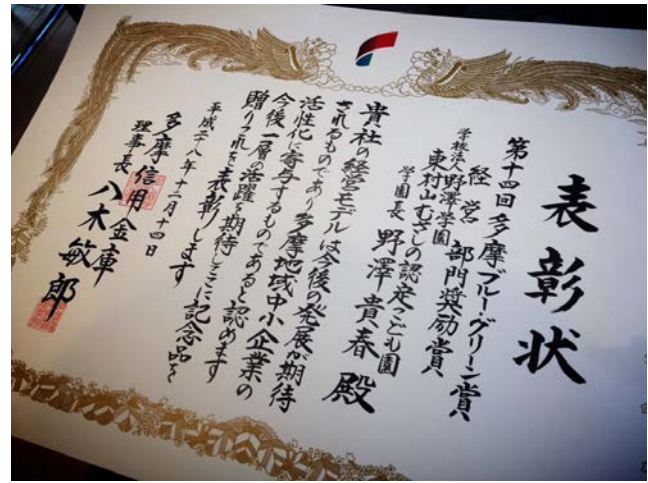
東村山市長よりお祝いのお手紙も頂き、このたび御礼とご報告をさせて頂きました。幼稚園や保育所の受賞事例はないと聞いており、今回、東村山市では唯一の受賞との事で、大変光栄に思います。

様々な社会の課題や実情に対し前向きに取り組むため、幼保各々を取り巻く縦割りを乗り越え、互いの長所を活用し合い、短所を補い合える環境の実現に至りました。今後も、過去の限界を超越しうる事業計画を創作しつつ、子ども達への最善の環境づくりを目指すとともに、地域の活性化や経済振興をも含めた総合環境創作に向け、創意工夫、取組んで参りたいと思います。

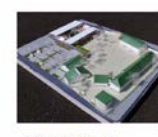
※「多摩ブルー・グリーン賞」は、地域で活躍する中小企業の方々の優れた技術や経営手腕を評価し、表彰することで、地域企業による技術開発や経営戦略創造の活力を生み出し、地域経済がより活性化されることを願い実施されています。

※多摩地域の中小企業の活性化と地域経済の振興に寄与することを目的に、優れた技術や製品を評価する「技術・製品部門(多摩ブルー賞)」と新しいビジネスモデルを評価する「経営部門(多摩グリーン賞)」の2部門から構成されています。

※多摩信用金庫主催、経済産業省関東経済産業局、東京都をはじめ、多摩地域市町村、8商工会議所、21商工会等地域経済振興団体および主要新聞各紙などの後援により、広く多摩の地域での公募により実施されています。



幼保相互の文化や歴史 特色を守り続ける併設連携ハイブリッドモデル



東村山むさしの第一認定こども園(幼稚園型)



むさしの

の園長が書く

新聞

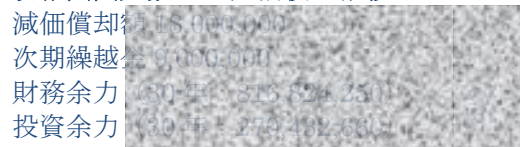
Vol.13

幼保を取り巻く現場からの情報誌。私的な思考も含めた乱筆なる走り書きの紙面であり、誤字脱字誤り、記述への誤解等あるかもしれませんが、ご容赦頂きたい存じます。



経営健全化へ向けた推移

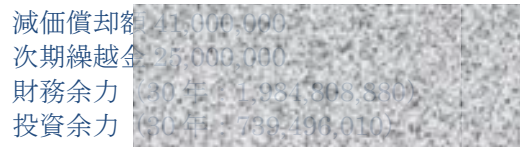
平成 20 年 (2008 年) 幼稚園園児数 300 人前後を推移



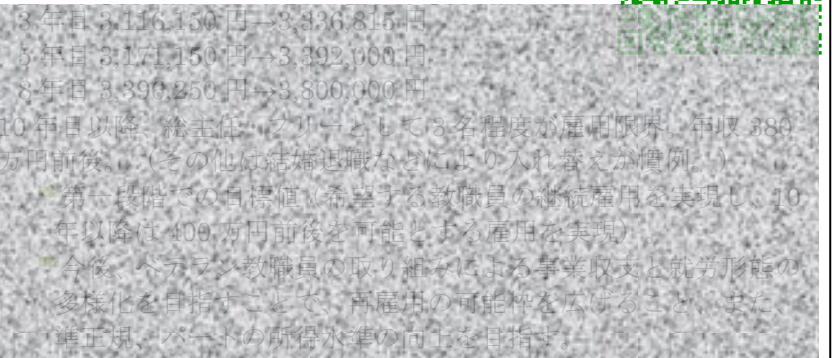
平成 22 年 (2010 年) 幼稚園単独型認定こども園認定こども園初年度



平成 27 年 (2015 年) 幼稚園園児数 238 人 連結事業体へと。



■賃金改善の推移



これまでの取り組みや今後の狙い

ついに平成 28 年度は出生数が 100 万人を切るというニュースが入ってきました。これは何を示唆しているのか。5 年後は幼児が減り、20 年後も成人人口が減り、それ以降も、生産人口の減少が続くという事実が突き付けられたこととなります。

減りゆく子ども達。経済構造の変貌。そのような未来の中で、いかにして、教育保育の量と質の確保・環境維持・雇用の保全など、様々な現実が押し寄せる中で総合的な計画の実現に向け、歩んでまいりました。

日本人の誰もが経験したことのない国家構造へと向かっています。その中で、様々な存在する全ての課題に対し正面から向き合い、取り組んで参りました。なかでも、子どもの減少と雇用競争へと向かう事実に対しては、早くから「数」ではなく、ROA、いわゆる「総資本利益率」といった観点、「魅力ある必要とされるニーズの複合的な創作」による効果的な事業形態を構築しようと取り組んでいます。

特に著しく、日本は「政策的経費」「投資的経費」の意味合いと構造への理解が乏しいと感じてきた中、それは、幼稚園業界・保育所業界でも同様であり、突き付けられた実情を受け止め、確実なる「下山経営」の中で、いわば「構造改革」を胸に、園長 9 年目、一步一步歩み続けている次第であります。

- 幼稚園舎および体育館の、機能向上を付帯させた上での建替えの実現
現行制度や社会的ニーズ、また、教育要領の改訂に向けた質の高い機能的な施設を目指して。また、公定価格構造をとらえ、社会貢献と財政基盤を共に具現化する方策を導き出しつつ、返済計画構築を実現させる。
- ワークライフバランスに応じ、多様に働ける形を変えた終身雇用を目指して
多様化するニーズに応え、また、埋もれるニーズの創出を捉え、「結婚・出産=退職」という構図の過去の遺産を打破し、多岐多様に働ける「子育て教育」の機能的な総合施設を目指す。
- 一見拡大に見える複合事業体への集約
グループ企業の創設と連携により、教育保育の枠組みを超えた、「子育てや生活が楽しくなる学園」づくりに対し、広く、子ども達のため、子育てのため、雇用のため、地域の活性化や経済産業のため、包括的な機能的・効率的な組織の創作に向けて歩み続ける。

さて、保育施設設置と連結経営を実現し、さらに、「複合化」へも歩み始めた今、それはまだまだ志半ば。子ども、ご家族、スタッフ、地域、すべてにおける「奇跡の事業体構築」への施策は始まったばかり。無理だと言って、やめますか?未来は誰にもわかりません。しかしながら、その可能性に関し、一縷の希望も感じて頂けるのであれば、今後とも変わらぬご支援とご協力のほど、どうぞよろしくお願いいたします。



筆者紹介/東村山むさしの認定こども園



第一・東村山むさしの幼稚園
第二・東村山むさしの保育園
学園長・野澤貴春

1971年1月、市内廻田町に生まれる。
1983年、東村山市立廻田小学校卒業。
1986年、同、東村山第四中学校卒業。
1989年、明星高校卒業。
1993年、中央大学・法学部卒業。
1997年、学校法人野澤学園勤務。
2008年、事務長を経て園長へ就任。

現在、東村山市子ども子育て会議委員、都私幼連認定こども園特別委員会委員、東村山市公立保育所民間移管ガイドライン検討委員など。(株) M-LABORATORY 代表取締役社長。

法律・政治を学ぶ傍らスポーツ活動にも力を入れ、日本代表にてモスクワへ。大学卒業後は、コンピュータ、医薬、金融など様々な接点のもと実業団にて選手活動や広報・開発などにかかわる。

国民体育大会や全国大会にて優勝ほか入賞多数、東京都スポーツ優秀選手賞等、多々受賞。
中学校教諭・高等学校教諭免許、大型自動車運転免許、Microsoft Office Specialist、等取得。

2010年 幼稚園型認定こども園認定取得(市内初)。
2013年 0歳~5歳児の「私立認定保育所」併設。
幼保連携型認定取得(市内初)。
2015年 幼稚園型・保育所型、2園認定へ移行。

昨今の主な予定

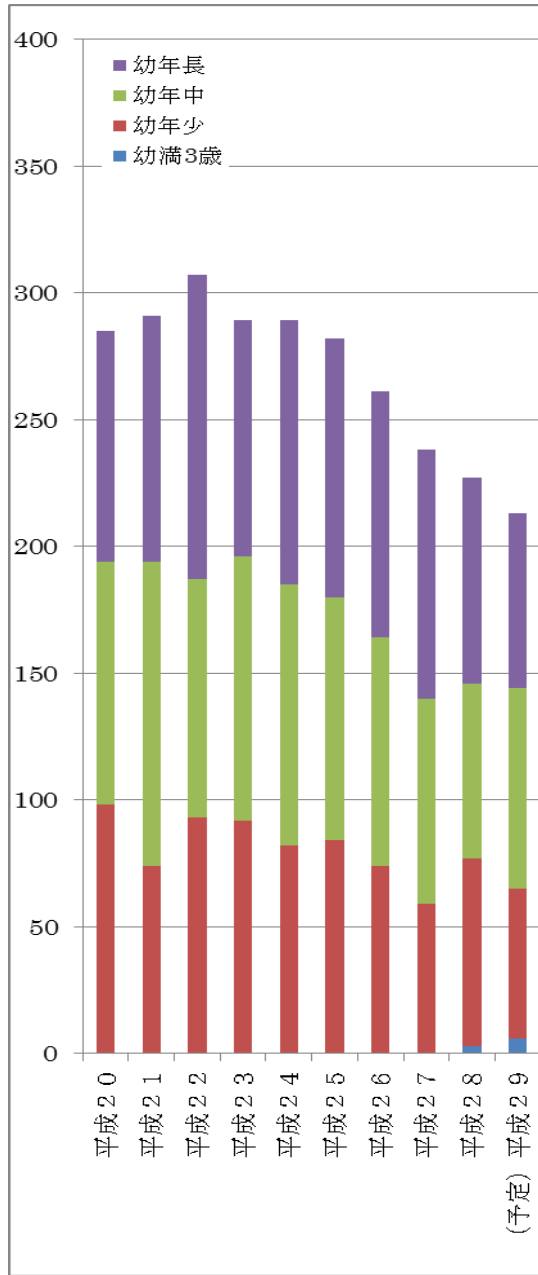
- 都私幼連認定こども園研修会(委員) / 2017,02,14
- 経営者セミナー講演(認定こども園関連) 大阪 / 2017,02,11
- 経営者セミナー講演(認定こども園関連) 丸の内 / 2017,02,04
- 都私幼連認定こども園研修会(委員) / 2017,01,30
- 東村山私立幼稚園連絡協議会・園長会 / 2017,01,17
- 福岡県よりご視察(全日私幼連副会長) / 2016,12,16
- 全国認定こども園協会関東地区大会(新宿) / 2017,01,14
- 都私幼連認定こども園研修会(委員) / 2017,01,12
- 横浜市よりご視察 / 2016,12,17
- 「次世代幼保実践政策研究会」(静岡県) / 2016,12,14~15
- 大分県幼稚園協会様ご視察 / 2016,11,14
- 所沢文化幼稚園様交流会 / 2016,11,11
- 千葉県野田市よりご視察 / 2016,11,08
- 福島県の幼稚園・保育園様ご視察 / 2016,11,08
- 都私幼連認定こども園委員会(私学会館) / 2016,11,04
- (株)フィンオール様ご来園 / 2016,10,26
- 山形県白鷹町市議会様ご視察 / 2016,10,26
- 都私幼連認定こども園研修会(委員) / 2016,10,19
- 全日本私立幼稚園連合会全国大会(石川県) / 2016,10,17~18
- 施設見学・研修受入(山形、埼玉、東京、神奈川、静岡等より) / 2016,10,05

教育保育の一体提供枠および地域雇用の創出の推移

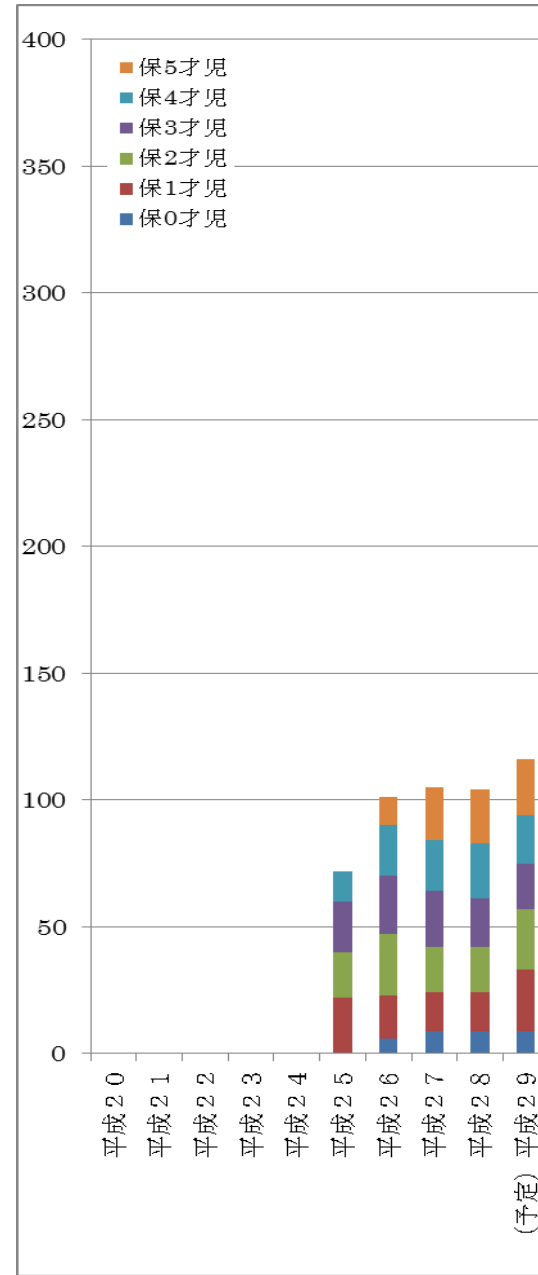
平成 20 年度（園長初年度）～平成 29 年度（予定） 学校法人野澤学園・東村山市廻田町 2 丁目
《地域を支える子育て支援の拡充と就労環境の創出効果》

■園児数の推移

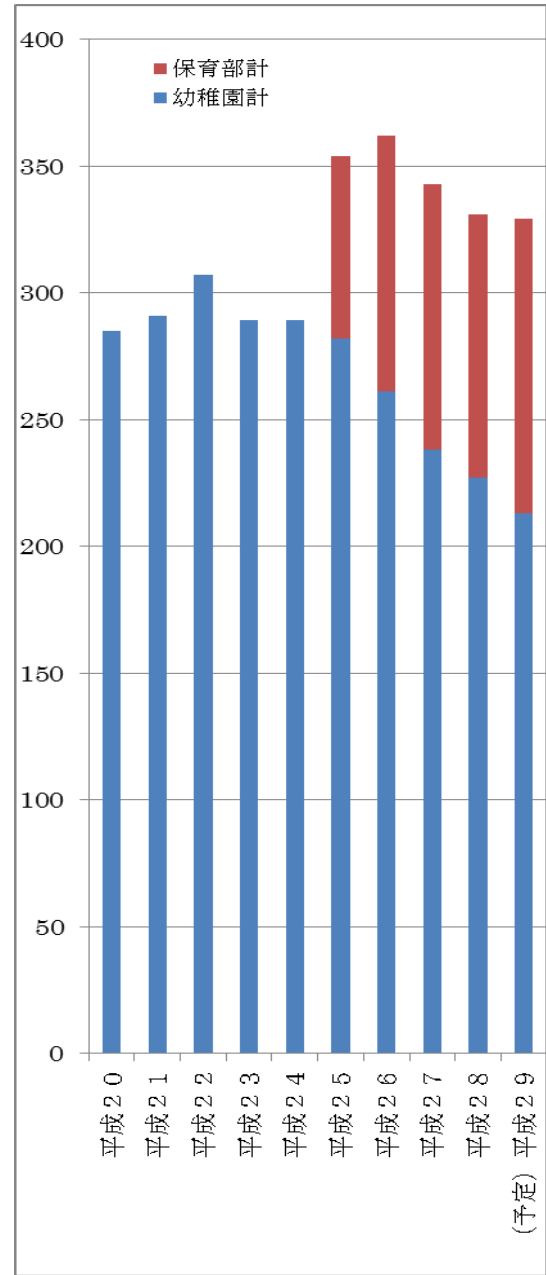
幼稚園型



保育所型

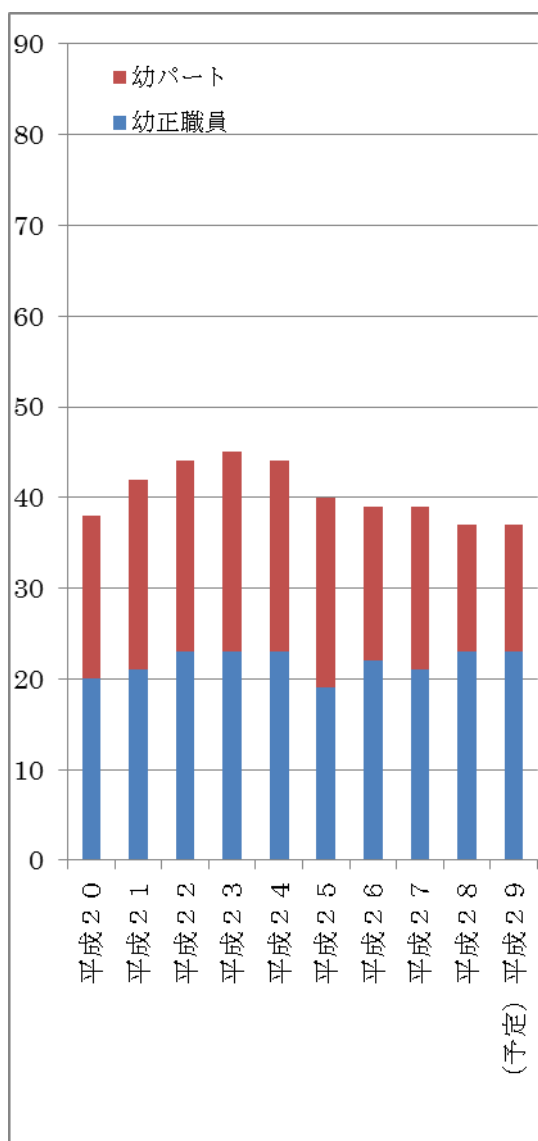


学園全体

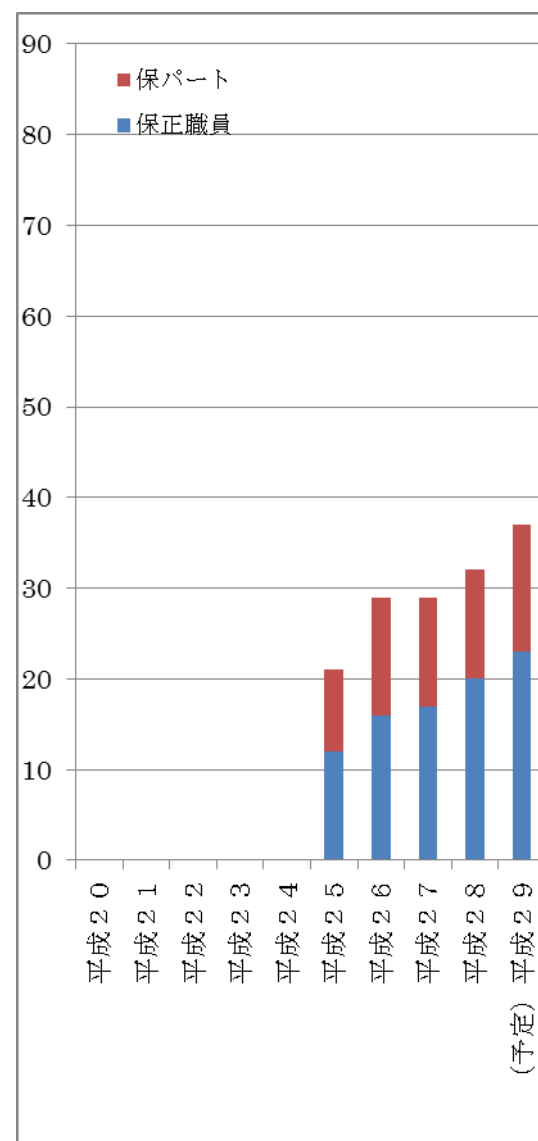


■地域雇用の創出

幼稚園型



保育所型



学園全体

